

令和5年度病虫害発生予察情報 予報第10号（10月）

令和5年10月12日
発表：福島県病虫害防除所

1 野菜・花き

作物名	病虫害名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	全域	—	少ない	発生ほ場割合は平年より低かった（－）。	多発すると防除が困難になるので、発生初期から薬剤防除を徹底する。
	土壌病害 （萎黄病、炭疽病）	全域	—	多い	発生ほ場割合は、平年より高かった（＋）。	発病株及び発病が疑われる株は、見つけしだい抜き取り、ほ場外に持ち出すなど適切に処分する。
	アブラムシ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった（±）。	低密度時から薬剤防除を実施する。
	ハダニ類	全域	—	やや多い	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。 天候予報（仙台湾気象台 10月5日発表）によると、向こう1か月の気温は高くなると予想されている（＋）。	低密度時から薬剤防除を実施する。 抵抗性の発達が懸念されるので、殺ダニ剤の選択には注意する。 カブリダニ製剤を放飼している場合は、天敵に影響の小さい薬剤を選択する。
野菜・花き共通	コナジラミ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は平年より低かった（－）が、天候予報（仙台湾気象台 10月5日発表）によると、向こう1か月の気温は高くなると予想されている（＋）。	低密度時から薬剤防除を実施する。
	ハスモンヨトウ	全域	—	多い	発生ほ場割合は、平年より高かった（＋）。 天候予報（仙台湾気象台 10月5日発表）によると、向こう1か月の気温は高くなると予想されている（＋）。	成虫の発生、産卵は11月上旬頃まで続くので、発生状況をよく観察する。 施設栽培では、開口部に防虫ネットを適正に設置し、成虫の侵入を防ぐ。 防除が遅れると被害が大きくなるので発生初期に薬剤防除を徹底する。

注）予報の根拠の中で（＋）は多発要因、（－）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。

より詳しい発生状況や防除対策は、

福島県病虫害防除所ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/> をご覧ください。

お問い合わせは TEL:024-958-1709、FAX:024-958-1727 または e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp へお願いします。